

居住支援事業

神戸YWCAが**居住支援事業**を始めて、今年で7年目を迎えました。住宅セーフティネット制度がスタートしたのは、2017年10月。神戸YWCAは2019年に「住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）」として兵庫県の指定を受けて活動を始めました。国土交通省の補助金を得て、事業を実施しています。

年々相談者の数は増えています。**生活の基盤である住居が不安定になる人々**がこんなにも多いことに驚きます。建て替えで立ち退きになる、家賃が支払えなくなった、階段や坂道が登れなくなった、その他様々な理由がありますが、高齢や障害のために不動産店に行っても門前払いされた、という方が少なくありません。次の住宅を見つけてほしい、という切実な相談を受けています。

活動を続ける中で、居住支援に理解のある不動産業者の方々や支援団体との出会いがあり、ご本人の希望にできるだけ沿う住宅を確保することができるようになりました。生活保護のケースワーカーや社会福祉協議会の地域ネットワークワーカー、あんしんすこやかセンター（地域包括ケアセンター）等からも依頼を受けています。安心して住み続けることができるよう、入居後を見据えて適切な住宅を探すように努めています。また、福祉的なサービスにつなぐなども行い、入居後も引き続き種々の相談支援を行っています。**新しい住居に入居し、新しい生活をスタートするまでに、たくさんの細かな支援が必要です。**相談は年々増え、業務は増えているのですが、補助金の金額は年々減額されています。補助金だけに頼ることが厳しくなってきました。

住まいは生活の基盤であり、住まいは人権、「ハウジングファースト」です。阪神淡路大震災のときに出会った居住福祉の概念を今一度念頭に置き、より良い居住支援活動に取り組みたい、居住支援活動を継続していきたいと願っています。

HAT 神戸・灘の浜プロジェクト

神戸YWCAは神戸市建築住宅局が募集した市営住宅地域コミュニティ活性化事業（モデル事業）に応募・採択され、2023年4月から、**市営HAT神戸・灘の浜住宅南集会所**で活動をスタートしました。

HAT神戸灘の浜は阪神淡路大震災の後、震災復興住宅として、UR、県営、市営住宅が建設された地区で、同市営住宅の高齢化率は55.6%（うち、80歳以上22.7%）、20歳未満10.5%という人口構成で、超少子高齢化となっています。高齢、独居の方々も多く、特に引きこもりがちな方々が少しでも**外部との接点をもつことのできる「場」や「仕組み」作り**に取り組んでいます。

活動1年目は、誰にも共通の課題である「食」をテーマに、NPO法人いちじま丹波太郎と協働して**「野菜市とミニミニバザー」**を定期開催。かつての商店街の「八百屋」のように、そこで出会う人、販売



毎週金曜日の「野菜市とミニミニバザー」交流とおしゃべりの場です（2024年3月）



みんなのカフェ主催「みんなのコンサート」。管楽器の生演奏を楽しみました（2024年6月）

者、YWCAメンバーが往来する「流動的集い場」として楽しんでいただいています。また毎月第3日曜日には**「みんなのカフェ」**を開催。居るだけで安心できる場として住民の方々をお迎えしています。

2年の今年は、集う方がリラックスし、大事に迎えられていると感じていただけるように集会所内部の備品をさらに充実したいと考えています。ぜひ応援いただきますようお願いいたします！